

## 生きている限り普通に暮らす メディコポリス構想で街を生き生きと

医療法人社団和風会 橋本病院  
理事長 橋本康子

都市のドーナツ化現象で過疎化した商店街を医療・福祉によって活性化していく「メディコポリス観音寺」を紹介します。

< 2003 年度「\*日本都市計画家協会賞」を受賞 >

21 世紀、超高齢化社会を迎え、高齢者自身はもとより、医療、福祉スタッフ、家族、地域住民というケアする側も真剣にどのような社会を作り上げていくかを考え、取り組んでいく必要がある。今も高齢者を対象にした施設づくりは着々と建設されているが、多くの場合、市街地から離れた地域であったり、通うにはバスなどの専用の交通手段が不可欠になっている。もっと自らの力で通え、便利に利用できるサービスはないものかと考えていた。

### 空き商店街

香川県観音寺市は人口約 5 万人の瀬戸内海に面した温暖な気候で過ごしやすい、風光明媚な中都市である。

面積 49.09 ㎢、 (平成 13 年度データ)  
人口 45,349 人、世帯数 15,416 世帯、  
人口増加率 (-0.4%)、65 歳以上 19.4%。

観音寺市は郊外型の店舗の出店や住宅地の開発が進んでいくと共に、南に人口が移動し、いわゆるドーナツ化現象が起きていた。

その結果、市街地には、昔から住みつづけている高齢者の方たちが残されている。往診などで診療に行ってみると、約 3 分 1 の店舗がシャッターを降ろしてしまっているような商店街。昼間でも人通りもなく、買い物に来られるのも、商店街で商売をしているのも、高齢者の方。店舗の 2 階が住居となっているため、高齢者は大勢いる。商店街の高齢者たちは、迎えに来てくれ

るバスで 30 分かけて郊外のデイケアなどに出かけ、5~6 時間してまた戻ってくる。

この町は高齢者の方たちによって作られていることに気がついた。



閑散とした商店街  
午後 2 時

### メディコポリス構想

沈滞化、過疎化した旧市街の商店街を活性化させるためには、直接若者を呼び戻すのではなく、既にその場の住人となっている高齢者に焦点をあてて医療従事者が高齢者を待ち受けるのではなく、近づいていくという発想で考えてみた。

施設中心の医療からコミュニケアの発想に基づく地域福祉の実現へ。この発想がベースになってメディコポリス構想がはじまった。

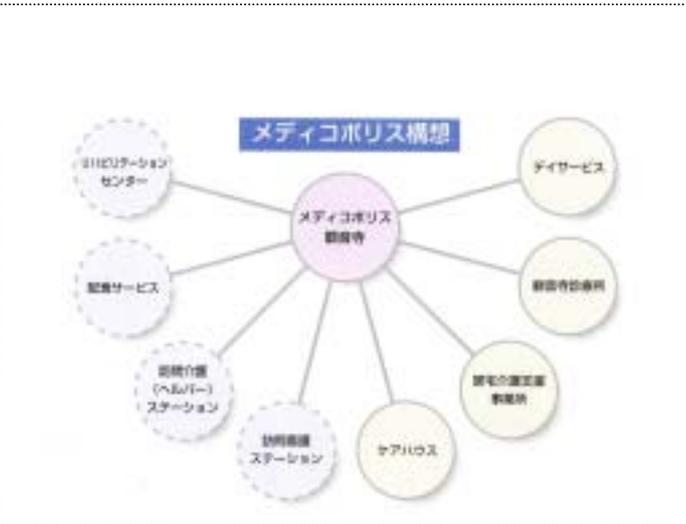
メディコポリスとは、メディコはメディスン、医学、ポリスは都市・地域自治共同体という語源からきている。メディコポリス構想は、地域の中で安心して老いて行くことが出来るというのが基本である。自分が生活していた街にずっと住みながら、必要に応じて医療や福祉のサービスを利用しながら、社会に触れ合い、出来る限り自立して生活できるような街づくり。それによって街も活性化させていこうという高齢過疎化を逆手にとった新しい地域再生策である。

### メディコポリス観音寺

町の真中のメディコポリス観音寺が拠点と

なり、医療、福祉のサービスが広がっていく。  
 まず空き店舗を借りて「居宅支援相談所」を立ちあげ、商店街の一角に「デイサービスセンターはしもと」、一年後は一階に「観音寺診療所」を、その一年後に、隣接してケアハウス「鶴亀ハウス」を開設した。「デイサービスセンターはしもと」は、近隣の高齢者を中心に毎日三十～四十人が利用している。デイサービスセンターの裏口からスロープを降りると、そこは商店街。アーケード、バリアフリーの歩行者と自転車専用の道路で車椅子でも安全。「喫茶店デー」「お買い物デー」「外食デー」などがプログラムに組み込まれていて、雑貨屋さんで自分で選んだ日用品を買ったり、タバコを買ったり利用者はとても生き生きとしている。地元自治会等の賛同も得られている。

また、店主ともなじみになり、お互いに楽しそうである。商店街内にある喫茶店でお茶を飲むのも楽しみにし外へ出ることの意欲につながっている。



一方、商店街周辺の高齢者は、自分が生活してきた街に住みながら、必要に応じて医療や福祉のサービスが利用できる。そして、自分でできることは自分で動いて行い、商いも続けていける人が増えている。高齢になり生活に不安が出てきた人は、メディコポリス観音寺内にあるケアハウス「鶴亀ハウス」を利用できる。ここは老人ホームのような施設ではなく、あくまでも“住まい”としてとらえているものである。商店街の人たちと夏祭りに参加したり、バスツアーへ出かけたり、

「二十四時間チャリティー」に参加したりと、楽しんでいる。地域の住人には大好評であり、生活に欠かせない施設となっている。メディコポリス観音寺は、「生きている限り普通に暮らす」を理念に人、医療、暮らしが育まれるまちづくりを行なう拠点である。



みんなで商店街へ買い物

### 今後の課題、構想

今後の課題は、周辺のショッピングセンター、駅、銀行、農協、公共施設のユニバーサル化である。今後、更に市行政や商店街自治会のまちづくり委員会の協力も得て、若者の雇用促進などにもつながるようにしていきたいと考えている。また、空き店舗を利用した配食サービス店、ヘルパーステーション、訪問看護ステーション、訪問リハビリなど商店街内へ点在させ、商店街付近の家庭へ訪問したり、必要に応じて利用していただけるようにしていきたい。将来の構想として、空き店舗を利用した高齢者住宅など、高齢者が自立して助け合いながら住める町を目指したい。

橋本康子(橋本病院理事長・院長)

橋本病院:香川県三豊郡山本町財田西 902-1

電話 0875-63-3311 FAX0875-63-2651

橋本さんは、香川県の南西の山本町で、橋本病院を開業し、「気づきの医療」をコンセプトに、地域に根づいた患者に信頼される病院づくりを行なっている。

.....  
 \*日本都市計画家協会(略称 Jsurrp ジェイサープ)は、都市・地域づくり活動を実施し支援する全国 NPO。都市・地域づくりの広範な分野にわたる取り組みの中から、すぐれた理念を持つ活動、計画、策定プロセス、手法、プロジェクト等に対し、活動とその活動家を顕彰して進展を支援したいと、顕彰事業を行なっている。